
西の森の魔女

鈴木真心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

西の森の魔女

【Zマーク】

Z0997Q

【作者名】

鈴木真心

【あらすじ】

西の森には魔女がいた。

その森にだけ、魔女がいた。

小さな小さな、考える童話。

その国はとても小さく、四方を森で囲まれていた。

北の森。

ここには神獣が住んでいた。

東の森。

ここには賢者が住んでいた。

南の森。

ここには魔物が住んでいた。

西の森。

ここには魔女が住んでいた。

一年に一度、北から順番に皆は森に集まる。
誰かが滅びない限り、全員が集まる。

今のところ、毎年全員集まっていた。

今年は西の森。

魔女の元へ、それぞれが集まっていた。

「皆、今年も元気そうね」

魔女はにっこりと笑つて集まつた面々を見渡した。

神獣と魔物は、体が大きくて魔女の家に入ることが出来ない。そのため、家の前に集まっている。

「もつと家を大きくしたらどうだ」

神獣はやや不満げに言つた。

「あたしにはこれが丁度いいのよ」

笑顔のまま魔女が答える。

「雨が降らなくてよかったですよ」

賢者がそう言つと、隣で魔物が頷いた。

一年に一度の集まり。

これには意味がある。

この一年、それぞれがこの国のために何をしたのか。
それを報告しあつのだ。

「私は今年、祭りを定めた」

「何の?」

神獣の言葉に、魔女が尋ねる。

「私を崇める祭りだ」

ふうんと、魔女は相槌をうつた。

「私は知恵を受けました」

「何の？」

賢者の言葉に、魔女が尋ねる。

「武器を作る知恵です」

ふうんと、魔女は相槌をうつた。

「俺は願いを叶えてやった」

「何の？」

魔物の言葉に、魔女が尋ねる。

「何でもか」

ふうんと、魔女は相槌をつった。

「魔女、お前は何をした?」

「遊んだわ」

神獣の言葉に、魔女は答えた。

「遊んだ?」

賢者は首を捻った。

「そうよ」

魔女は頷いた。

「国の奴らと?」

魔物も首を捻つた。

「やあ、一緒にたくさん遊んだわ」

魔女の言葉に、全員が笑つた。

そんなものが何になると、嘲り笑つた。

西の森の集まりは、じつして終わつた。

しづくして、この国に飢饉が訪れた。

人々は食つに困り、北の森の神獣の祭りを行つことが出来なかつた。

人々は言つた。

「どうして食べるものが困るのに、祭りなどしなければならないのか」

「よし、南の森の魔物に祭りを何とかしてもうよつと願いしよう」

南の森の魔物は、願いを叶えた。

魔物は、神獣を滅ぼした。

しばらくして、人々は墮落した。

ふと気が付いて、人々は言った。

「魔物がいるからいけないんだ」

「何でも叶えてしまうから、やる気が出ない」

「よし、東の森の賢者に知恵をもらおう」

東の森の賢者は、知恵を与えた。

森を焼き払えと。

魔物は、森と一緒に焼け滅びた。

しばらくして、人々は罪の意識に苛まれた。

人々は言った。

「何故、こんなに辛い思いをしなければならない

「東の森の賢者のせいだ」

「あいつがいなくなればすつきりする」

人々は、東の森に詰めかけた。

賢者から授けられた知恵で作つた武器を持つて。

東の森の賢者は、人々に滅ぼされた。

西の森の魔女は、只、それを見ていた。

その顔は、どこか辛そうで、切なそうだった。

しばらくして、この国は落ち着いた。

人々は、何事もなく、今日も平和に暮らしている。

年に一度の集まりはなくなってしまった。

仕方がない。

もう、魔女以外はいないのだから。

集まりがなくなつて、それでも魔女は、今日も人々と遊んでいる。

親が仕事に出掛ける前に預けられた子供、
自ら遊びに訪れる子供、

道に迷つた子供、

様々な人々と遊んでいる。

子供だけでなく、大人も訪れたりする。

「ねえ、どうして他の森には誰もいないの？」

ひとりの子供が、不思議そうに尋ねた。

魔女は少しだけ切なそうに笑つてから、口を開く。

「それはね　　」

西の森の魔女は、今日も人々と遊んでいる。

語り継ぐべき、物語を語つて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0997q/>

西の森の魔女

2011年1月13日02時29分発行